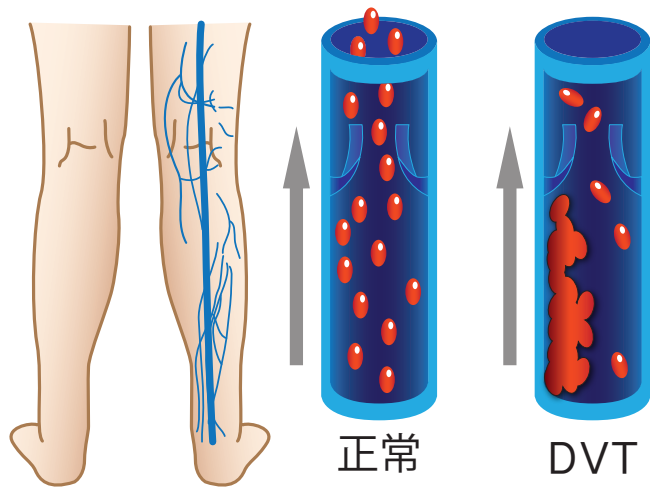


下肢の血液の循環は、動脈と静脈によって行われます。動脈は心臓から四肢へ血液を運び、静脈はその血液を心臓に送り返す働きをします。下肢には皮膚に近い表在静脈と、深いところにある深部静脈がありますが、この深部静脈に血栓（詰まり）がおきる状態を、深部静脈血栓症（DVT：Deep Venous Thrombosis）といいます。血栓は下肢（ふくらはぎ、もしくは大腿）に起きることが多いですが、身体の別の箇所で起きることもあります。

DVTは非常に危険な病態で緊急性があります。血栓が割れて血管内を移動し、肺まで飛んでいくことがあります。これを肺塞栓といい、呼吸困難を起こしたり、最悪の場合は死に至ることもあります。肺塞栓は太腿よりもふくらはぎの血栓が原因となることが多いです。



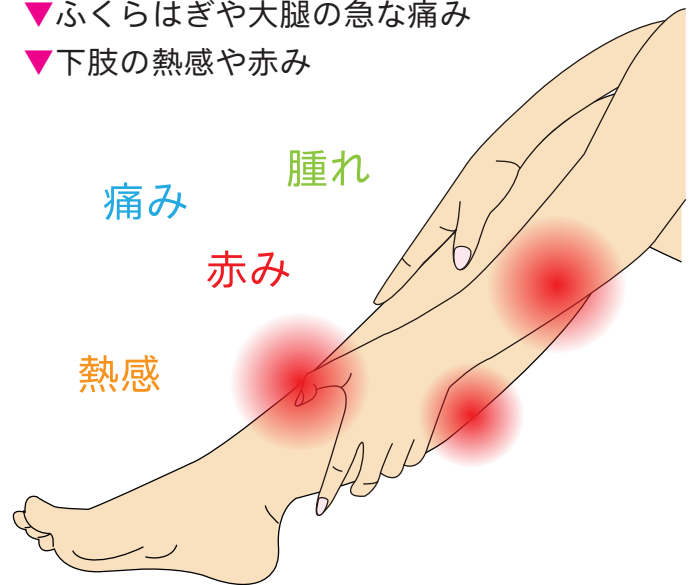
深部静脈血栓症の原因

DVTの形成には多くの要因が関与していますが手術、妊娠、経口避妊薬などの薬剤、長期安静なども考えられます。患者さんのリスク要因が多いほど、DVTになるリスクは高くなります。しかしながら、これらのリスク要因が無くてもDVTが起きることもあります。

徴候と症状

下肢のDVTで、全く徴候がないか、症状が漠然としていることもあります。以下のような徴候や症状が見られたら専門医を受診することが重要です。

- ▼ 下肢の腫れ
- ▼ ふくらはぎや大腿の急な痛み
- ▼ 下肢の熱感や赤み



治療方法

検査によって血栓が認められた場合、医師により治療についての説明があります。

血栓の場所や大きさ、性状によっては入院が必要な場合もあります。

治療には以下のようなものがあります。

- ▼ 投薬：更なる血栓の形成を防ぐ為に、血液をさらさらにする薬を服用します。
- ▼ 弾性靴下：足を圧迫する靴下またはストッキングにより、痛みと腫れを低減します。
- ▼ 外科手術：血管外科医による外科手術が必要となることもあります。